

——フィルムカメラの知識は何で学びましたか？

カメラ店に直接聞きに行ったんですよ。そこで出会った方に親切に教えてもらって、良いスタートを切れたので、今も続けれているんです。ブローニーフィルムのカメラの使い方も、この方から学びましたね。このカメラ店ではそういうサービスはしていないんですけど、「教えるからカメラを持っておいで」と言ってくれてたんです。今でもその方と交流があるんですよ。

——暗室で写真を焼くのはハードルが高そうなのですが、よくご自身でやろうと思いましたね。

最初は人をお願いして焼いてもらっていたんですけど、全部自分でやりたくなっちゃったんです。もう勢いですよ（笑）。カラーでも白黒でもいいからやりたいなって考え始めたんです。今の時代、調べればネットとかで情報が出てくるじゃないですか。それで色々調べていると、フリマサイトで初めての暗室セットという一式揃ったものを見つけたんです。それがモノクロ専用だったんで、じゃあモノクロやってみようかな？って思って始めましたね。それも勢い。一回試して、駄目だったら止めればいいじゃん、って。それで楽しかったら、とことんやるんですよ。



Aboxメンバーの二眼レフを覗き込む。
興味があるものには、まず触れる。

——sUmさんの個展「道標」では見に来てくださった方が沢山いらっしゃったのが印象的でした。
見に来て下さった方の年代も幅が広がったですね。

友人、知人も来て下さったんですけど、家族が周りに声をかけてくれたのも大きいです。家族のお陰なんですよ。個展での設営も父と母がサポートしてくれて、自分が個展を開く事も広めてくれたんです。カメラを始めてから親子の関係が良くなりましたね。家に作った暗室も、使ってない部屋を改装して使わせてもらってます。家族の協力があるから作品を作り続ける事ができる。家族には感謝しかありません。